

# いわて復興だより

がんばろう！岩手、つながろう！岩手

## 三陸復興

第55号  
(平成26年1月1日号)  
岩手県

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波。震災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げます、この「つながり」を大切にしていきたいと思っております。

明けましておめでとうございます。本年は「本格復興推進年」をテーマに、復興を進めていきます。復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します。

## いわて三陸復興フォーラム in 名古屋が開催されました ～ご支援への心からの感謝を～

名古屋市

12月19日(木)、「いわて三陸復興フォーラム in 名古屋」(主催：岩手県)が、愛知県女性総合センター「ウィルあいち」で開催されました。

今回のイベントのテーマは「ご支援への心からの感謝を」。冒頭の陸前高田市の方々からのビデオメッセージでは、戸羽太市長も登場。愛知県・名古屋市を中心とした支援への感謝がそれぞれの言葉で語られました。

続いて行われた岩手県・達増拓也知事による基調報告では、被災状況・復興状況等の説明の中で、今年ヒットしたドラマ「あまちゃん」を例に、「地元の底力と様々な

つながりの力を合わせる事が重要」と力説。また、名古屋市・河村たかし市長による基調講演では、名古屋市による「陸前高田市丸ごと支援」や、「陸前高田市の子どもたちを名古屋市へ招待するプロジェクト」等の多様な支援について、おなじみの名古屋弁で熱弁。

続いてのパネルディスカッションでは、写真家、企業、大学教授、被災地域の住民など、様々な立場から復興と向き合っているの方々により、支援報告やそれぞれの想いが語られ、意見交換が行われました。

支援する側の熱い想いと支援いただいた側の感謝の想いが会場を包む、温かなイベントとなりました。多くの方々からのご支援を力に、復興を進めていきます。



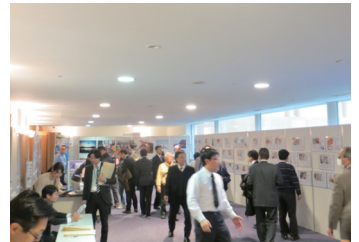
県から贈呈した「はんでん」(大漁旗で作成)を着た河村市長と達増知事



陸前高田の現状を語る船碇千幸さん(写真右から2番目)



撮影した「一本松」への想いを語る安田菜津紀さん(写真左から2番目)



場内では、安田菜津紀さんによる写真の展示や、岩手日報社のパネル展示等も行われた

## 名古屋市での復興支援！～いわて・陸前高田復興支援産直プラザ・みちのく屋～

名古屋市

名古屋市による様々な被災地支援の一つに、産業支援があります。名古屋市営地下鉄・上前津駅の改札を出てすぐの「いわて・陸前高田復興支援産直プラザ みちのく屋」さんにお邪魔してきました。

みちのく屋は、平成25年10月オープン。名古屋市が株式会社みちのく屋へ運営を委託しているお店で、岩手・東北の復興支援のため、岩手県及び陸前高田市の品物を中心とした東北の物産を販売しています。店長の宮垣雄樹さんにお話を伺いました。

宮垣さんは、震災後に被災地でのボランティア活動に従事していましたが、がれきの撤去も落ち着き、段々と専門的な人材ニーズが高まってきたことを感じ、自分には何ができると考えていたとのこと。そんな中で、「みちのく屋」の立ち上げの話があり、東北の美味しいものを売ることで継続的な支援ができると考えたそうです。

いわて・陸前高田復興支援産直プラザ「みちのく屋」▶住所：名古屋市中区大須4-11-15(地下鉄上前津地下街) TEL：052-252-0202

「東北の食べ物をおいしく食べ、関心を持っていただくことで、震災の記憶風化防止につなげたい」と力強く答えていただきました。

売れ筋商品は、まめぶ汁、ゆべし、南部せんべい、陸前高田の「夢の樹パウム」等で、地元の方々の利用が多数とのこと。愛知県と岩手県・東北とのつながりを感じる温かなお店でした。



岩手県・陸前高田市の物産が並ぶ「みちのく屋」



たかたのゆめちゃん、奇跡の一本松等のグッズも販売

## いわて復興応援団(員)大募集中!

知って、買って、食べて、行って応援!

登録無料



首都圏等にお住まいの方を対象に、応援団員(個人)と応援団(法人及び団体)の登録を募集しています。登録者には岩手県の復興の取り組みや観光・物産・首都圏でのイベント情報などをお届けします。

詳しくは岩手県東京事務所ホームページをご覧ください。

いわて復興応援団

検索

# 大槌中学校生徒会が「派遣職員に感謝する会」を開催

～日頃の感謝の気持ちを込めて“色紙”をプレゼント～

大槌町

12月13日（金）、大槌町立大槌中学校（鈴木利典校長、生徒282人）の生徒会は、「派遣職員に感謝する会」を開きました。

この会は、全国の自治体や企業から、大槌町の復興事業のために派遣されている職員の方々に「ありがとう」の気持ちを伝えようと同校生徒会が発案。

会場となった大槌町役場・多目的ホールには、同町に派遣された職員が招かれ、約50名が参加しました。

生徒会のメンバーらは、派遣職員一人一人に、全校生徒のメッセージを書いた色紙と花束を手渡しし、同校3年生で歌手の白澤みさきさんも、感謝の気持ちを込めて歌を披露しました。

会の最後には、生徒と参加した派遣職員全員で円陣を組み、「進め！大槌！」のかけ声とともに、復興への思いと決意を新たにしていました。

同校生徒会長の新田亮介（にったりょうすけ）君は「派遣職員のみなさんに日頃の感謝の気持ちを伝えたい」と思い、全校生徒に呼びかけた。この会を開いて、皆さんの笑顔が見ることができたのでうれしい」と話していました。

大槌町は、職員241名のうち115名が派遣職員。全国からの応援を受け、復興の道を歩んでいます。



派遣職員にプレゼントを渡す生徒たち



円陣を組み「進め！大槌！」のかけ声

## 平成25年【第4回】「いわて復興ウォッチャー調査」の結果を公表しました

岩手県は、東日本大震災津波からの復興状況を定期的に把握するため、「いわて復興ウォッチャー調査」を実施しています。

これは被災した市町村に居住又は就労されている方を対象に、3ヶ月に1回実施するものです。

今回は、平成25年第4回目（平成25年11月実施）の調査結果から、主なデータを紹介します。

### 被災者の生活の回復度

「回復」または「やや回復」：48.0%（前回調査42.7%）

- ▶ 前回調査と比べ5.3ポイント上回った。
- ▶ 「被災者の皆さんに心の余裕ができてきた」、「応急仮設住宅から出る方が増えた」など前向きな声がある一方、復興工事の遅延・中断等を懸念する声も見られた。

今回の調査結果を受け止め、今後の復興関連施策へ反映させていきます。

### 地域経済の回復に対する実感

「回復」または「やや回復」：48.8%（前回調査44.4%）

- ▶ 前回調査と比べ4.4ポイント上回った。
- ▶ 大型スーパー等の進出による雇用拡大を期待する声とともに、仮設店舗への経営状況への影響を懸念する声も見られた。

### 災害に強いまちづくりに対する実感

「回復」または「やや回復」：13.7%（前回調査15.6%）

- ▶ 前回調査と比べ1.9ポイント下回った。
- ▶ 防潮堤等の進捗を前向きに評価する声がある一方、早期復旧・整備を求める声もあり、地域により実感の度合いが違う模様だった。

いわて復興ウォッチャー調査 平成25年第4回

検索

### 岩手県の被害状況

平成25年11月30日現在

- ▶ 人的被害 死者（直接死）：4,672名 行方不明者：1,143名
- ▶ 建物被害（住家のみ、全半壊） 25,023棟

被害状況等の詳細

義援金・寄付金の募集等

いわて防災情報ポータル

検索

皆様のご支援、ありがとうございます 平成25年10月31日現在

▶ 義援金受付状況 約178億5,943万円（87,052件）

▶ 寄付金受付状況 約186億2,150万円（6,307件）

▶ いわての学び希望基金受付状況 約60億3,353万円（10,956件）

※ 被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください!! <http://iwate-fukkoudayori.com>

いわて復興だより 第55号 平成26年1月1日 企画・発行：岩手県復興局総務企画課 ☎019-629-6925

いわて復興だよりバックナンバーは

いわて復興だより

検索

編集・印刷：シナプス